

あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター

住所：名古屋市中区三の丸 3-2-1

愛知県東大手庁舎 1階

TEL：052-954-6722

FAX：052-954-6993

開館：月～金 10～17時



第2回 ゆるりっと会

5月27日。お天気は晴れ！ 爽やかな初夏の空気！

愛知のこの空気感、初めて参加する人も二度目の人も、きっと心地良い朝だったと思います。

主催者として、ゆるりっと会開催への不安と緊張、みんなにまた会える嬉しさで一睡もできなかった前夜。それでも初めての愛知の5月の朝を気持ちよく迎えました。

当日は17世帯46名(大人21名、子ども25名)の方にご参加いただきました。

今回は、交流会・原発事故相談会・懇親会という3部構成で、11時～20時までおこないました。

ゆるりっと会を開催するにあたって、「交流会に出づらいと感じている人にも参加して欲しい」という熱い思いがあります。それは第一回目から第二回目も変わらず、同じ思いです。そして、今回も前回同様たくさんの初参加の方にも来ていただき、楽しい時間を過ごしました。ご多忙の中、小牧市役所のご担当の方や福島県名古屋事務所の方のご参加、そして多くの方のお力添えがあり、成り立ったことに感謝いたします。

第一回でも好評だったハンドマッサージ。



今回は、株式会社ラッシュジャパン(LUSH)よりご提供いただいたクリーム等で、ハンドスクラブ&マッサージを行いました。

前回、お互いにマッサージし合う事に若干の照れや躊躇もありましたが、今回は和気あいあいとスタート。初参加の方々も、その雰囲気にならぬようにすんなり入り込んでおられました。

マッサージ終了時には、「うわ～！ ツルツル～！」、「本当だ～！」などと、皆で手を触れ合い笑顔の女性たち。

別テーブルの男性方は地図を広げ、「俺の家、ここ！」、「近いところに居たんだな～」などと故郷を思い出し、笑顔でお話をしながらも、時折見せる厳しい表情もありました。

弁護士の方との相談では、皆「今まで」と「これから」の不安や想いを個々に相談されてきました。これからの繋がる貴重な機会だったことと思います。

ボランティアの方々に作って頂いたご飯やおやつに、みな声を揃えて、「作ってもらって美味しいね」と。

私達には気軽に寄れる実家が近くにはないから、作ってもらっていただくご飯が尚おいしく感じるのです。

この一日、「みんながいるから」や「たくさん話したからまた頑張れる」というお言葉をいただきました。

その裏側で、長引く母子避難中の家族の為に

(2ページに続く)



毎週愛知に通っているお父さんの疲れた表情。

それを気遣うお母さん、なにも知らずにあどけない顔でお父さんに絡みつく子ども。

「今年中に、地元へ戻るの」と切なげな表情でそっと話してくれた方。

「帰りたいけど、帰りたくない、でも、戻る」その心境が痛いほどわかって、でも上手く包んであげられなかった苦しみと別れの寂しさ。

こちらに避難して来たときと同じように毎日悩んで、迷いに迷って決断されたことでしょう。

「地元の夢を毎日みるんだ」と話してくれた、お父さん。

「甲状腺の検査を受けた」と話してくれた方。これからずっと我が子に検査を受けさせていかなければならない、私達の宿命。

守るものをもったための不安。

前に進むために戦っていかなければならない事。たくさんの課題。

長引く避難の中で少しずつこの地にも慣れてきた私達、被災者。

それでも故郷は大切。故郷が恋しくなるときもあるでしょう。

そんな時にこの愛知で寄り添って進んでいき、ゆるりっと会という空間で、想いを吐き出したり、笑ったり、と心の充電ができる時間になればと思います。

身近な存在となった支援者や託児の方々に、馴染んでいく子どもたち。

少しずつ自分

の地元の食材や現状のことなどを知り、言葉として第三者の方に発し始めている小さな心。きっと小さな心なりに、「なにか」を求めて発しているのかも知れません。

支援してくれている方を、おじいちゃん、おばあちゃん、親戚のように懐いていく子どもたち。その子どもたちを待っている地元の本当の身内。様々な気持ちが交差して絡み合って、嬉しさや切なさを感じます。

そして、被災者を想うご好意も、絶えることはありません。

お土産に、ユニー株式会社からおもちや、小牧市の一般の方からお米をご寄贈いただきました。こういう被災者を想ってくださる想いも、私達が前に進むために忘れてはいけない大切なことだと思います。

長い時間はアッという間に過ぎ、帰り際には「さようなら」ではなく、「またね～」という言葉が飛び交い、「被災者同士」から「友」へ… との変化も感じられました。

笑顔で再会を約束し、楽しい一日は終了となりました。

たくさんの想いを抱えた上での、皆様の素敵な笑顔。

これからも、私達はどこにしようと、しっかりと繋がっていかうと思いました。

(ゆるりっと会実行委員会)



出張！原発事故相談会

5月27日（日）、小牧市総合福祉施設ふれあいセンターにおいて、ゆるりっと会に続いて、福島原発事故損害賠償愛知弁護団による「出張！原発事故相談会 in 小牧」が開催されました。

1世帯ごとに弁護士がついての個別相談会でしたが、ゆるりっと会に参加されていた友人同士で弁護士に質問する方や、ゆるりっと会で弁護士と話をし、相談会でさらに詳しい話を聞く方もいらっしゃりなど、ゆるりっと会と同じように和気藹々とした雰囲気の相談会になりました。参加した方は、それぞれ、損害賠償手続や、原発ADRの状況、弁護団に依頼した場合の費用などの説明を受けたり、持ってきた東京電力の請求書や新聞記事を見せて弁護士から説明を受けたりするなど、熱心に説明を聞いていらっしゃいました。説明を聞き、帰ってご家族と相談される方や、弁護団に申し込みをされる方もいらっしゃいました。

また、6月9日（土）、みよし市役所において、「出張！原発事故相談会 in みよし」が開催され、4世帯の方が参加されました。はじめに弁護士から、損害賠償請求の手続や原発ADRの状況、



弁護団についての説明があり、その後、一世帯ごとに弁護士がついての個別相談が行われました。この説明会でも、参加した方は担当の弁護士の説明を熱心に聞かれ、相談会の後弁護団に申し込みをされる方もいらっしゃいました。

福島原発事故損害賠償愛知弁護団では、6月24日（日）13時30分から、大府市役所で出張相談会を行う予定です。7月以降も相談会等を行っていくことを計画しています。また、相談会以外にも、電話相談・面談での相談など、無料相談を随時受け付けています。

お気軽にご参加・お問い合わせ下さい。

（福島原発事故損害賠償愛知弁護団

052-508-5601（ブナの森法律事務所）

第2回ふるさと交流会 in 東三河 さつまいものつる差しとバーベキュー

2012年6月10日（日）10時～14時、「第2回ふるさと交流会 in 東三河」が開催されました。

県内9世帯26名の親子が参加し、楽しい1日を過ごしました。

最初にご好意で貸していただいた豊橋市高塚町の畑で、さつまいものつる差し（500本）をしました。「おいしいお芋さんが出来るといいね」そんな声が聞かれました。

次に豊橋市少年自然の家へ移動し、みんなでバーベキューをしました。国産のお肉にウインナー、地元生産者のお野菜、地元メーカーの焼

きそばなど盛りだくさんの食材。みんなで下ごしらえし、舌鼓を打ちながら、ワイワイガヤガヤ楽しく交流しました。「おいしいね！おなかいっぱい！」笑顔があふれました。

最後にレクリエーションをし、「きょうの日はさようなら～ また逢う日まで」とみんなで合唱し、名残を惜しみながら再開を約束しお開きとなりました。

この企画は、今年度中にあと2回（草取り8月頃、収穫祭10月頃）予定されています。次回はさらに参加の輪が広がることを願っています。

（ふるさと交流会 in 東三河 実行委員会）



「海部津島地域歴史の講話」を聴講して

愛知県西部に位置する海部・津島地域では、各市町村・同社会福祉協議会・コープあいち・愛知県被災者支援センターと地元避難された方を交えて交流会を企画しています。

5月10日に開かれた「第3回交流会 in 弥富のまとめの会」では、その冒頭に地元の歴史を学ぼうと、弥富市歴史民族資料館の伊藤隆彦学芸員から歴史講話を伺いました。この歴史講話を聴いての感想を、出席された黒津さんにまとめていただきましたので紹介します。

歴史は私たちに何かを語りかけてくれます。特に郷土の歴史は、この土地に生きた先人の苦勞や喜びを、今に生きる私たちに強烈に具体的な知恵としてのメッセージに感じられます。そして、私たちに今後をよりよく生きる術を示唆してくれます。この度、弥富市歴史民俗資料館文化財グループリーダー伊藤隆彦様のご講話は、私たちがお世話になっている海部地区の先史、歴史、文化、産業と現代社会を俯瞰させてくれる内容の濃いお話でした。公私ご多忙な折私たちのために快くお引き受けくださった伊藤様に心から感謝申し上げます。また、セッティングに当たられた愛知県被災者支援センターはじめ関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

濃尾平野の成立は、地殻変動によって養老山地が隆起し木曾三川は沈下し海部地区一帯は海底で、上流からの堆積物によって洲が形成されて低平な土地となったそうです。このことから濃尾平野には、地震による液状化や地盤沈下の問題が隠されていることが分ります。建築物を建てる場合にはそのための配慮が欠かせません。

濃州、勢州、尾州に広がる木曾三川は肥沃な土地であり農業が発展し、川では漁業が営まれ、この地方を支えてきました。一方では、大雨で水害を起こし、人々を苦しめてきました。先人は命や財産を守るために輪中を作り、水屋や命塚、助命壇など避難の知恵を工夫したのです。また、耕作のための「堀田」など独特の文化を生み出してきたことが素晴らしいと思いました。

江戸時代、尾張藩は木曾川一帯に「御囲堤」を作りましたが、このことは対岸の濃州、勢州や尾州にも川の氾濫を引き起こす原因となってしまう。これらの地域の人々の嘆願を受

けた幕府は、薩摩藩に木曾三川の治水工事を命じたのです。薩摩藩士による「宝暦治水」は、多大な犠牲の上に完工されました。この工事は、当時の人々の命や財産を守っただけでなく、現在に至る治水工事の基礎として、今に生きる私たちに大きな恩恵を与えています。指揮をした家老平田靱負をねぎらい、町名を「平田町」と命名したことを知りました。鹿児島にはさまざまな偉人がいるが、鹿児島県の南日本新聞社は彼を郷土のリーダーの一番に挙げています。鹿児島市と大垣市は友好市になっているとか。

本格的な木曾三川の治水事業は、明治20年からオランダ人技師のヨハネス・デ・レーケらの献身的な指導によって行われました。輪中には結束を重視するあまり、「輪中根性」と呼ばれる負の面もあります。しかし、過去の歴史を偲び、知恵や苦勞に思い馳せることが、私たちには大切と思われました。

現在、長良川河口堰が問題として浮上しましたが、過去の歴史の叡智に学んでよりよい解決をみたいものです。

三角州の河口部の干拓にも触れられました。歴史の表面には出てきませんが、経済力を手にしていた地主や豪農、豪商たちがいました。彼らの野望と時の為政者の奨励とが相まって干拓事業が進み、この地が経済発展をしてきました。郷土の文化や歴史は、武士、百姓等の教科書には書かれていない真実の姿を、私たちに示してくれる生きた教材です。

東南海沖で地震が心配される今、それほど遠くない昔に伊賀、遠州灘、東南海に関東大震災の規模を超える大地震が発生していたことを郷土の歴史は伝えています。東南海地震について

地域の名産、特産についても話されました。名鉄尾西線、弥富、一宮間にローカル線が走っているわけはなぜか。この地で盛んだった綿織物から毛織物への流れを通し、産業の発展と密接な関係にあることを学習できました。

“大根（方領大根）と屋根（名古屋城）と金魚（地金）の国自慢”の言葉は、ほんのりと懐かしさ

地域を歩けば、道標、神社・仏閣、顕彰碑、史跡、文化財、整理されたかつての支川を見ることができます。よく整備された歴史民俗資料館が、各市町村にあります。温故知新、それらを一つでも多く訪ね歩きたいと思っています。

QUESTION

会場には、ポップコーン、飲み物、ケーキ類の販売コーナーもあり、売り上げの一部は被災地へ寄付されるとのことでした。また、募金箱も設けられ、チャリティーに参加してくれた子



愛知県被災者支援センターは本部の近くで、これまでの活動や今後の計画など展示させていただきました。未だ愛知県への避難者の数は減るどころか、わずかながら増加している現状や、時間の経過とともに避難者の方々の意識・望むものが変わってきていることなど、広く皆様にご理解いただき、引き続き幅広いご支援をいただけるよう、PR してきました。

愛知県被災者支援センターニュース「あおぞら」編集ボランティア募集

誌面に掲載する記事について、「こんな記事があったらいいのに」と避難者の視点で提案をしてくださる方。行政などの支援情報を集めて、解り易く解説編集する作業、交流会へ出向いて参加者などへの取材など、文章を書くのが好きな方。パソコンを使って、レイアウトをするのが得意な方、校正作業や印刷、折り込み作業などをコツコツこなすのが得意な方。お手伝いください。

【活動日】

第 1 回 編集会議

7 月 13 日（金）10：00～12：00

オリエンテーション、編集会議

* 月に 1 回 15 日前後に開催する編集会議ほか、
月に 3 回程度活動があります。

【資格経験】

- * 文章を書くのが好きな方
- * パソコンでレイアウトができる方
またはパソコンの基本操作ができる方
- * ボランティア活動保険に加入済み、
もしくは加入していただける方。
(年間 390 円～(自己負担))

【活動場所】

愛知県被災者支援センター、自宅、取材先等

【募集人数】 10 名

【申込方法】

メール、FAX、電話で氏名、連絡先、活動可能
日をご連絡ください。

【締切日】 7 月 11 日（水）

【申込】

愛知県被災者支援センター（担当：松岡）

名古屋市中区三の丸 3 丁目 2 番 1 号

愛知県東大手庁舎 1 階

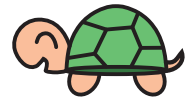
（地下鉄名城線「市役所」駅 2 番出口

東へ徒歩 3 分）

E-mail:mousikomi@aichi-shien.net

TEL:052-954-6722（月～金 10:00～17:00）

FAX:052-954-6993



行っ得! ～ イベント情報 ～

人形劇団むすび座

夏休み子ども劇場 2012

「おむすびころりん /

こわがりうさぎホッペル」

日 時：7 月 21 日（土）～ 24 日（火）

①10:30～ ②14:00～

場 所：損保ジャパン人形劇場 ひまわりホール
名古屋市中区丸の内 3-22-21
損保ジャパン名古屋ビル 19 階

問合せ・申込：人形劇団むすび座

TEL:052-623-2374

FAX:052-623-9520

E-mail:musubiza@mc.ccnw.ne.jp

（申込方法など詳細は同封のチラシをご確認ください）

子育てつどいの広場 in 瑞穂区

子育てについての情報交換会を開催いたしま
す！お気軽に遊びに来てください。

日 時：7 月 29 日（日）10:30～14:00

場 所：ボラみみより情報ステーション
名古屋市瑞穂区妙音通 2-40 1 階

TEL：080-4228-5356

※ 切：7 月 20 日（金）

申 込：愛知県被災者支援センター

（祝日を除く月曜から金曜 10:00～17:00）

TEL:052-954-6722

FAX:052-954-6993

E-mail:mousikomi@aichi-shien.net

（詳細は前回 6/10 便同封のチラシをご確認ください）